

文教安全常任委員会における関係団体との懇談会報告書

1 開催日時 平成27年8月21日（金）午前9時30分から

2 会 場 八千代市立萱田南小学校 2階図工室

3 テ ー マ 環境整備
教育サミット
子どもサミット
英語教育

4 参加者

(1) 八千代市校長会

会長ほか役員5名

(2) 八千代市議会文教安全常任委員会

委員長	山口	勇	副委員長	伊東	幹雄
委員	伊原	忠	委員	立川	清英
委員	林	利彦			

5 開催の趣旨

市の教育施策の実施に伴い、管理職である校長の資質向上を図る目的で活動している校長会と意見交換の場を持ち、教育現場の声を今後の委員会活動や議員活動に生かす目的で実施した。

6 懇談会の経過

昨年に引き続き、2回目の開催となる。今回は、教育現場において話題になっている事柄として校長会から4つのテーマをいただいた。

最初のテーマの環境整備については、暑さ対策などが話題となった。エアコンは、窓を開けられない音楽室と夏休み期間も利用される管理諸室を優先して

整備するため、普通教室については、エアコン以外の暑さ対策で凌ぐこととなる。現在は、各校の実情に合わせ、グリーンカーテン、よしず、濡れタオルなどの手法がとられているとのことだ。委員より、エアコン以外の暑さ対策だと教職員の手間がふえるのではないかとの危惧が提起された。

教職員の多忙化は、暑さ対策にかかわらず他のテーマの懇談中にも何度か言及され、根深い問題であるという認識を強めた。部活の顧問をしている先生の場合、朝は7時前から夕は夏季で6時30分の最終下校過ぎまで生徒の相手をし、それからようやく事務仕事にとりかかることができるのだという。校長も、これ以上教職員の負担をふやすことは管理職としてできないとしつつも、その解消については、構造的な問題であるため、悩んでいると語った。

2番目のテーマの教育サミットは昨年度から始まった新しい取り組みで、市内の小学校、中学校、高校、大学、特別支援学校の校長等関係者が一堂に会し、教育を核とした地域社会を構築する目的を共有する会議だ。

学校間の連携の実例として、サミット以外にも、大学生が体育の授業に協力したり、大学で小学生を対象とした理科の実験が行われたり、高校生が小学生にスポーツ指導をしたり、大学祭に小中学生が出展したりと、学校ごとさまざまな取り組みを知ることができた。

3番目の子どもサミットも地域づくりが一つのテーマとなっているが、こちらは子どもが主役で、子どもが主体的に地域に参加することが重視されている。

子どもが意見・主張を発言する場を用意することにより、自主性や主体性、考える力が身につくことがよくわかった。たとえば、入学式や卒業式の司会進行を生徒がしている中学校がある。昔であれば、子どもにできるのかと二の足を踏んでいたかもしれないが、今の教育現場では逆に、そういう機会を与えなければ子どもの成長は見込めないとの考えに変わっている。授業でも行事でもそういった機会をつくるようにしているとのことだ。子どもサミットもその一環だ。

地域の学校の運動会や式典に出席した折、子どもたちのスピーチや振る舞いに感心させられることも多い。教育方針を伺い納得がいった。

4番目は英語教育だ。八千代市の小学校は、外国語活動における教育課程特例校の指定を受け、低学年から英語活動を実施している。国が「グローバル化に対応した英語教育実施計画」と銘打ち30年度から改訂する新学習指導要領の内容についても、前倒しで来年度から実施される予定となっている。

充実した英語教育を行うためには体制整備が欠かせない。ALTについては、昨年度から契約形態が業務委託から派遣に変わり、現場の教師との連携の円滑化が図られたとのことだ。現在も、人数や配置、契約期間など検討事項が残っており、議会も教育現場を注視していかなければならない。

ALTの効果を示すエピソードとして、イングリッシュキャンプの話を知った。ALT

と小中学生が文字通り英語のみで一日を過ごす催しだ。参加した校長は、その日の朝と夕で明確に子どもの発音が変わっているという実感を得たそうだ。英語を自然と吸収できる子どものうちからの英語教育は重要で、大人になってしまふところはいかないのかもしれない。

ALTのほかにも、外国語活動に協力いただいている存在としてCTAが挙げられる。「コミュニティ・ティーチング・アシスタント」の頭文字で、八千代市独自のボランティア制度だ。ボランティアの英語の先生というより、子どもが英語活動を介して地域の人に関わるという色が強い。

英語教育だけでなく、学校外での子どもと地域がかかわりを持つことも狙いの一つだ。子どもサミットの目的とも重なるが、「地域で自然におはようございますが言えて、何かあった時にお年寄りを助けられるような子ども」が理想像として語られた。

また、ALTやCTAと交流することは、子どもが英語に興味を持つインセンティブとしても機能している。

7 懇談会を終えて

予定していたテーマの枠を超えて双方から活発な発言があった。教育現場の現状や課題の一部を共有するとともに、我々の認識を教育現場に伝える機会にできたと感じている。

